

令和 8 年度 南砺市歯科保健推進協議会 会議録

1. 日時 令和 8 年 7 月 2 日（木）午後 7 時～午後 8 時 15 分

2. 場所 南砺市地域包括ケアセンター 2 階多目的研修室

3. 出席者：16 名

齋藤会長、山本副会長、金子委員、武部委員、下村委員、山本委員、唐嶋委員、
中段委員、野原委員、正木委員、大浦委員、荒木委員、山岸委員、中井委員
午房委員、齋藤委員

欠席者：松倉委員、水口委員

傍聴人 0 人

事務局：地域包括医療ケア部長 ほか 6 名

4. 会議内容

(1) 開会・委員会の成立

司会進行：健康課長 金兵

欠席者：松倉委員、水口委員、事務局 木村（南砺市民病院）

成立要件：委員総数の過半数以上の出席を得ており、南砺市歯科保健推進協議会設置
要綱第 6 条第 2 項の規定により会議は成立。

(2) 会長および副会長の選出

事務局案が提案され、委員の拍手をもって以下の通り決定した。

会長：齋藤 繁徳 委員（南砺市歯科医師会）

副会長：山本 武夫 委員（南砺市歯科医師会）

以後の進行は齋藤会長が務めた。

(3) 事務局からの報告（令和 7 年度事業実績および令和 8 年度事業に向けて）

① 健康課（妊婦・乳幼児・成人期の歯科口腔保健）

実績と課題

- ・妊婦歯科健診の受診率（44.4%）は横ばいだが、う歯や歯肉炎ありの割合が悪化傾向。
- ・1 歳 6 か月児の 1 人当たりむし歯本数が増加傾向（要保護児童 1 名に多数のむし歯があったことが影響）。全体としてはフッ化物塗布率は 90% 台と高い。
- ・口腔疾患検診において、20 歳・30 歳を新たに対象者として追加したが、20 歳～50 歳代の受診率が低く、全体の受診率は 16.0% に低下した。

今後の取り組み

- ・切れ目のない支援による受診率の向上、フッ化物の安全性や正しい歯みがき方法の普及啓発を実施する。

② こども課（保育施設における歯科口腔保健）

実績と課題

- ・全 16 園でフッ化物洗口（4・5 歳児希望者）を実施している。
- ・年齢が上がるにつれてむし歯有病率が増加する傾向にある。3 歳 6 か月児健診以降の啓発は保育園等が中心となるため、継続した指導が必要。

今後の取り組み

- ・フッ化物洗口の継続、保護者への啓発（保健だより等）、発達段階に応じた園児への指導を継続する。

③ 教育総務課（児童生徒の歯科口腔保健）

実績と課題

- ・市内全学校でフッ化物洗口を実施している。
- ・むし歯のない子どもの割合は小中学校ともに県平均より高いが、未処置歯の割合が前年より増加している。
- ・歯周疾患の要観察者（GO）の割合が、小中学校ともに県平均を上回っており注意が必要。
- ・質問紙調査で「食後に歯みがきをするか」に対し、高学年になるにつれ「だいたい」と答える割合が高くなる。

今後の取り組み

- ・低学年への指導強化、児童生徒の委員会活動を通じた歯みがきの定着、保護者への治療勧奨を勧める。

④ 地域包括医療ケア部（高齢期の歯科口腔保健）

実績と課題

- ・歯周病により歯を失う方が多く、作製した入れ歯が合わなくなり 2 年以内に使わなくなるケースが多い。
- ・歯科衛生士や言語聴覚士等の専門職による出前講座や「すまいるエイジ教室」を実施している。

今後の取り組み

- ・高齢者サロン等での受診勧奨や、多職種連携による対策の立案、専門職による指導を継続する。

(4) 質疑応答および意見交換

歯科保健講演会について

委員：素晴らしい講師を招いているが参加者が少ない。市の地区行事等に入れ込んで周知してはどうか。

事務局：市民が興味を持てるようなテーマや講師等となるよう検討していく。更に、周知も工夫していく。

口腔疾患検診について

委員：年代別の受診率を教えてほしい。また、受診率向上のためには、胸部レントゲン検診等との同時実施はできないか。

事務局：受診者は60歳代以上の高齢層が多い。また、胸部レントゲン検診等との同時実施は、歯科専用の医療器具の準備や安全面、従事者の確保の観点から難しい。

口腔体操の普及について

委員：フレイル予防の「パタカラ体操」等をラジオ体操のように普及できないか。

事務局：地域包括支援センターで「ほっと・あっと・なんと体操」の口腔機能バージョン等を作成し無料配布している。サロン等で活用してほしい。

協議会の運営について:

委員：実績報告に時間が割かれている。事前資料で確認できる部分は要点のみとし、地域の課題について意見交換する時間を充実させてほしい。

事務局：今後は、限られた時間を有効活用し、活発な意見交換ができるよう運営方法を検討する。

(5) 各団体の取り組み報告・意見

委員:食生活改善推進員の全体研修会で口腔ケアと食事（噛む回数が増える野菜等の摂取）の重要性や、認知症予防との関連を学んだ。20歳代等の若年層の健診受診率向上が将来の健康寿命の延伸において課題であり、学んだことを地域に伝達していきたい。

委員：母子保健推進員連絡協議会では、「こんにちは赤ちゃん訪問」の際に歯ブラシを配布し、幼い頃からの歯みがき習慣の重要性を伝えている。

委員：ヘルスポランティア連絡会では、高齢者サロンで「パタカラ体操」や「ほっと・あっと・なんと体操」を実施し、口腔機能維持に努めており好評を得てい

る。

公募委員：毎朝の「舌ブラシ」を推奨する。また、親子が集まる地域の行事に歯科衛生士を招き、啓発する機会を作りたい。誤嚥性肺炎予防のための口腔機能トレーニング（パタカラ体操等）や舌ブラシの使用が重要と考える。南砺市のライフステージを通じた予防の取り組みは、全国的にも進んでいると評価している。

公募委員：南砺市民病院の歯科口腔外科の手術等ができる体制に感謝している。今後ともかかりつけ歯科医院と口腔外科の連携をお願いしたい。

（6）連絡事項・閉会

事務局：10月1日（木）午後7時より、朝日大学歯学部 of 江原道子先生をお招きし、歯科保健講演会を開催する。

委員：「ほっと・あっと・なんと体操」第2弾等のYouTube配信はできないか（CDがない環境での普及のため）。

事務局：楽曲の著作権の都合により、現在公開できているのは第1弾等一部に限られている。

以上をもって、令和8年度 南砺市歯科保健推進協議会を閉会した。